

# 中学生の方言接触と変化

—大分県大分郡挾間町における社会言語学的調査研究—

松 田 美 香

The Dialect Contact and its Change in Junior High School's Pupils

: A Sociolinguistic Study in Hasama-machi, Oita-gun, Oita-ken, Japan

Mika MATSUDA

## 1. 調査研究の目的

地域社会の中で、新しく他所から転入して来た住民と、当該地にふるくから住みつづけている住民<sup>1)</sup>との、ことばの面での接触の現状はどのようなものか、ということに興味を持った。今や日本中の町村で、その土地で生まれ育った者ばかりという所は、非常に少ないと思われる。社会の動きの激しさに伴って、人の動きも激しい時代になっている。このような社会の流れの中で、3代以上前からその土地で暮らす家族—いわゆる「旧住民」—と、1代もその土地で生まれ育ったわけではない家族—いわゆる「新住民」—とが混在する町村は、今後ますます増加するであろう。

大分市に隣接し、現在人口増加著しい大分郡挾間町を調査地域に定め、上記のような新旧住民の方言接触と変化の動態を捉えること、また全国的な言語現象との関連や比較を試みるのが大目的だが、本稿では、その一歩として、町内唯一の中学校である挾間中学校全生徒を対象とした調査研究について述べる。

中学生は、ことばの使用において不安定で、

流動的な、いわゆる過渡的状況の存在であろうと予想される。彼らは、新しい現象の影響を受けやすく、新現象の萌芽も見られるであろう対象である。挾間町内の中学校は、この挾間中学校1校だけである。生徒たちが、町内におけるさまざまな言語（方言）に触れる時に何が起きるのか、現在何が起きているのかを知ることが、挾間中学校の生徒への調査でほぼ把握できることになる。こういった理由から、まず挾間中学校から調査することにした。

筆者は、以下のように仮説を立てた。語彙や文法形式などは、少数派は多数派へと、学齢が上がるほどに変化を遂げ、まとまる傾向が見られるであろう。ただし、全国的な流行語や新方言の存在も考慮する必要がある。また、少数派にも旧住民の場合と新住民の場合があつて、それぞれに質が違ふと考えられる。東京や大阪など、いわゆる強い文化圏の方言は孤立して（少数派になつて）も使用し続けられる傾向が見られ、挾間町内の古い方言になると、比較的容易に統合されてしまうのではないか。「マイナーからメジャーへ」、「弱文化圏の方言から強文化圏の方言へ」、この2つの要素のせめぎ合いが見られるはずである。

本稿では、アンケート結果の中から、大分県大分郡挾間町の中学生における、可能表現と伝統的方言語彙について取り上げる。

<sup>1)</sup> 実際に住みついてからの年月はさまざまだが、今回は調べ得る祖父母の代から当該地で出生し居住している場合、「旧（ふる）くからの住民」、「旧住民」と呼ぶことにする。

## 2. 先行研究

以前の中学生の方言調査は、その土地に長く住む60歳代以上の方言話者との比較のために調査されることが多かった。それは、中学生がその土地の共通語化や方言的特徴の消滅を予告する存在とされていたことによる。大分県方言の研究においても同様で、九州各県各地の方言事象を網羅した九州方言研究会(1969)『九州方言の基礎的研究』や30年間の方言変化を追究した松田・日高(1996)『大分方言30年の変容』でも、その土地の生え抜き話者<sup>2)</sup>が求められた。

方言研究のテーマが共通語化から新方言の発生へと展開していく中で、若年層の存在も違った角度から捕らえられるようになった。吉岡泰夫(1990)「高校生のことばの特徴—獲得と消失—」では、熊本県内の中学生、高校生、20歳代、30~40歳代、50~60歳代、70歳代以上と年代を分けて、高校生のことばが単に共通語化しているのではないことを証明した。彼らが伝統的方言を面白いとして取り上げ、仲間内から再流行させていく力を持っていることを検証した。吉岡(1996)「若者の方言志向」でも、伝統的方言形の復活や新しい方言形を使用する10代~20代の話者が、「方言に魅力を感じる」「方言が好き」という志向が強いことを証明している。また、陣内正敬(1996)『地方中核都市方言の行方』でも多方面から九州内の地域中核都市の方言実態を示すが、残念なことに大分市(大分県)は対象都市になっていない。

したがって、今回の調査では吉岡(前出1990)で示された現象、

若者のことばが単に共通語化しているのではなく、彼らが伝統的方言を面白いとして取り上げ、仲間内から再流行させていく力を持っている

という証拠になる現象が大分県内でも見られる

か否かを探りたいという狙いもある。

しかしまず今回は、これまで他でもあまり調査されたことの無い、中学生の方言接触と変化から見ていきたい。吉岡(1990)は高校に通学することによって、他所の方言や共通語と接触することになる時期として「高校生」に注目した。調査結果では、いくつかの新方言現象において高校生から値が高まり、年代が上がるにつれて下降カーブを描いている。そこでこの調査からうかがえる、中学生から高校生への上昇カーブの内容を見る必要もあるだろう。「中学生」もやはりこれまでの狭い範囲「小学校区」から抜け出し、新しい方言や共通語に出会っている可能性があるからだ。また、一般的に中学生時代の12~15歳は、言語形成期の終わりの時期である。他者の新奇なことばにも柔軟に対応し、受け入れる可能性が高い。中学生の時期に高校生が見せる変化の萌芽を見出すことも、あるいはできるのではないか。

さて、今回は可能表現と伝統的方言語彙について取り上げるので、以下、可能表現と方言語彙についての先行研究を見てみよう。

大分県内での可能表現の研究は豊富である。糸井・種(1977)「大野川流域における可能表現」、日高・種(1981)「大分県津江地方の可能表現」、日高(1983)「大分県国東半島の可能表現」などがあるが、その結果が日高(1991)「大分方言の可能表現」にまとめられている。大分県方言では可能表現におおむね3つの意味区分が認められ、それぞれ「能力可能」、「客観状況可能」、「主観状況可能」と名づけられている。状況可能がさらに2区分される点が、特徴的である。神部宏泰(1987)「九州方言の可能表現法—その存立と特性—」によると、

可能態は、「能力可能」(一定の動作が、その動作主体の能力に基づいて、成就実現すること)と「状況可能」(一定の動作が、その動作主体の立つ、客観的状況に支えられて、成就実現すること)とが、異なった叙法によって表される地域が多い。

(『九州方言の基礎的研究』から著者の記述)

さらに、

<sup>2)</sup> その土地で生まれ育ち、他所居住経験の無い者。詳細は後述。

種・日高(1981)は、「主観状況可能」として、一項を立てている。すなわち、可能表現に、「客観状況可能」「主観状況可能」「能力可能」の三態を認めようとしている。これはたしかに有効な区分と考えられる。

と記されている。神部(1987)によると、「状況可能」を表す形式が九州各地で「ルル・ラルル(レル・ラレル)」という1形式で安定しているのに対し、「能力可能」は「強調的な心意に支えられて」変化を繰り返し、常に新形式を求めるのである。さらに「主観状況可能」を担うものは、かつては「能力可能」であって使い古された末、衰退せんとしている形式であることを、広く九州一円の能力可能表現形式の分布や例文から証明している。しかし、日高(1991)によると、3区分の規準は個人的な面も多く、同じ状況でも発話者のとらえ方で違う形式が選ばれることもあるという。

また、大分県方言の語彙に関する研究も数有るが、先述のように中学生のみを対象にしたもの、中学生の中での方言差や関係する社会的要素を調べたものは無いようである。松田(1991)「語彙の変遷—「俚言鈔」の追跡—」では、約150年前に日田市地域で使用されていた方言語彙の残存率を求めて、『俚言鈔』の老人の残存率は少年(中学生)の2.7倍あることを明らかにした。ただ、残存率は語によって違いが大きく、依然としてよく使用されている「強力語」も存在すること、また、新しい方言が生まれていることも指摘している。

### 3. 調査の方法

#### 3-1. 挾間町について

大分県大分郡挾間町は、県中部に位置する。東に大分市、北西に別府市、西に庄内町、南に野津原町と隣接する。山々と大分川の支流の中にある田園地帯と、大分医科大学を中心として作られた新興住宅地や大型ショッピングセンターから成る、県内有数の人口増加地域である(平成10年14,139人、平成12年11月現在14,812人。2年間で328世帯673人増)。農業

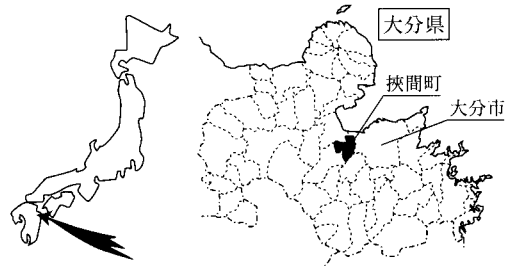


図1 挾間町の位置

人口は、年々減りつづけ、大分市等へ通勤する人のベッドタウン化の傾向が見られる。交通機関は、バスの他JR久大線「向之原駅」があり、自動車で大分市中心部まで30分の位置にある。

#### 3-3. 方法

調査方法は、全国的な視野と当該地域の特徴的な現象を調べるための質問を作り、挾間中学校全校生徒にアンケート形式で回答してもらうことにした。その回答された記号(発音表記=カタカナ)をコンピュータ入力し、集計、グラフ化し、さらに、その結果と話者の情報・条件との関係を調べた。

以下に本調査の基礎となるデータを記す。

調査期間	1999(平成11)年10月～11月	
調査対象者	大分県大分郡挾間町立 挾間中学校全校生徒	
有効回答数	409	
	(ただし、部分的に無回答を含む)	
男女比	202 : 207	
生年分布	1984年生	115 名
	1985年生	149 名
	1986年生	110 名
	1987年生	28 名
	不明 <sup>3)</sup>	71名

#### 3-4. 調査の内容

##### 3-4-1. 可能表現

<sup>3)</sup> 年齢あるいは言語経歴、成人した家族の言語経歴が不明の場合を、不明とした。

可能（～デキル）形式の種類と使い分け

それぞれの意味の違いがはっきりする質問文を与え、どの形式を使うかを尋ねた。なお、主観状況可能の出現しやすい否定形を尋ねた。

A	能力可能（連用形）+キル/キラン〈否定形〉
B	客観状況可能 （未然形）+（ラ）レル・ルル/（ラ）レン
C	主観状況可能 （可能動詞の語幹？）+ル/レン

A, B, Cに可能動詞形（読メンなど）と変化形（着リキランなど）を加えた回答を用意して、記号で答えるようにした。さらに、併用の場合、一番使うものと次に使うものを、順位を書き入れて表現してもらったようにした。これから示す数値は、単回答の場合はその番号を、複数回答の場合は「1（最も使う）」のみを数えた結果である。「2（次に使う）」は、必要に応じて参照する。

3-4-2. 方言語彙と使用理由

聞こうとする方言語彙の意味を方言辞書等で調べ、わかりやすい言葉で書き直し、「この意味で使うことばはどれか」と尋ね、記号で答えてもらった。同時に、そのことばを使う理由を8つの選択肢から選ぶようにした。

【調査語】

- やや古いと思われる語
- 「気乗りがしない」のヨダキー
- 「びっくりする」のタマガル
- 「だめだ」のツマラン
- 「ちゃんとしてない（人）・くだらない（物）」のスモツクレン

方言であっても使用度が高いと思われる語

- 「とても・すごく」のシンケン

理由として考えられるもの

- a 同じ年の人が使う言葉だから（学校・学年）
- b 家族が使う言葉だから（家庭）
- c はやっている言葉だから（流行）
- d 正しい言葉だから（規範意識）

- e 新しい言葉だから（新奇・流行）
- f 古い言葉だから（伝統）
- g おもしろい言葉だから（新鮮さ・感覚的）
- h その他

3-4-3. 話者情報

- (1) 性別・年齢（生年）・言語経歴
- (2) 言語環境…21歳以上の同居している人の出生地と年齢

他にもアンケート内容では、アスペクトとテンス、一段活用動詞のラ行五段化傾向、言語意識を調べた。これらの結果は、別稿に記することとする。

4. 調査結果と分析

4-1. 生え抜きと非生え抜き

—旧住民と新住民—

町内の生え抜き話者を調べた。生え抜き（ネイティブ・スピーカー）の条件として、生まれてから現在まで当該地域から離れて暮らしたことのない人、さらに言えば、親や祖父母の代も少なくとも片方は生え抜きであることとされる。

今回、本人が挾間町で生まれ育ち、家族構成員（大人）半分以上が挾間町生まれである対象者を「生え抜き」とした。挾間町で生まれ育った生徒の中で、同居する親が両方とも（1人の場合はその大人が）挾間町生まれであること、あるいは60歳以上の老年層と同居している場合、そのうちの半分以上が挾間町出身で、親の代も少なくとも片方は挾間町生まれであることを条件とした。これは、本人が挾間町の生まれ育ちでも家族の誰かが他所の生まれである場合、そちらのことばの影響も強く受けるはずだからである。その影響を考えて、このような条件を満たす対象のみを「挾間町生え抜き」と決めた。その結果、「生え抜き」該当者は71名となった。

#### 4-2. 生年によるグループ分け

いくつかのグループ分けを試みた結果、今回の調査結果の分析に有効なのは、「生年」であろうと思われる。「学年」で分析すればもっとはっきりした傾向が出せるかもしれない。

今回は「生年」のみを尋ねたので多少学年とのずれはあるが、1984年生まれから1987年生まれまでを年で分けて見ることによって、言語接触の様子と変化の様子を捉えることが出来ると考えた。

「生え抜き」の生年分布

1984年生	29 名
1985年生	22 名
1986, 1987年生	20 名
計71名	

「非生え抜き」の生年分布

1984年生	86 名
1985年生	127 名
1986, 1987年生	119 名
計332人	

#### 4-3. 可能表現の調査結果

大分県地域の可能表現については、2. 先行

表1 英語が得意ではないので、英語の本を読むことができない

(能力可能の否定)期待される語形 ヨミキラン

	ヨミキラン	ヨマレン	ヨメン	ヨメレン
1984年生	13	0	18	4
1985年生	11	0	11	4
1986・7年生	13	0	6	4

表2 部屋の明かりが暗いので、ここでは大好きなマンガの本を読むことができない

(客観状況可能の否定)期待される語形 ヨマレン

	ヨミキラン	ヨマレン	ヨメン	ヨメレン
1984年生	1	12	14	4
1985年生	0	8	12	1
1986・7年生	0	8	7	5

研究で述べた通り、「能力可能」「客観状況可能」「主観状況可能」の3区分が妥当とされている。よって、先行研究を参考にして質問文を作成し、アンケート回答を得た。なお、学年を反映するように1986年生まれと1987年生まれをひとつにまとめて集計している。また、質問文で否定形を求めているのは、神部(前出1987)などにもあるように、可能表現の形式の推移によって、衰退しつつある形式は否定形のみ出現する可能性が高いからである。したがって、すべての質問文を否定形で作成し、どの形式も出やすくするよう配慮した。

##### 4-3-1. 「生え抜き」の可能表現 (否定形)

後掲の表1~9とグラフ1~9に示す。

##### 4-3-2. 「非生え抜き」の可能表現 (否定形)

後掲の表10~18とグラフ10~18に示す。

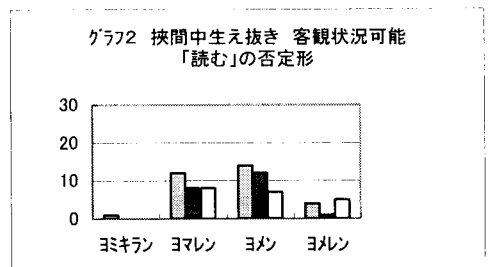
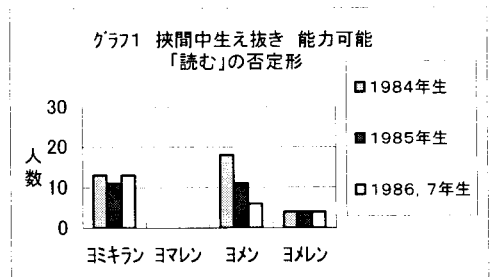


表3 3時間も本を読んでいるので、もうこれ以上は本を読むことができない  
(主観状況可能の否定)期待される語形 ヨメレン

	ヨミキラン	ヨマレン	ヨメン	ヨメレン
1984年生	6	1	15	9
1985年生	5	2	7	8
1986・7年生	5	3	5	10

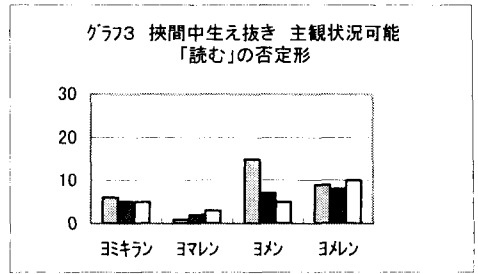


表4 まだ幼いから、洋服をひとり着ることができない  
(能力可能の否定)期待される語形 キキラン

	キリキラン	キキラン	キラレン	キレン	キレレン
1984年生	11	7	4	9	2
1985年生	8	5	4	5	2
1986・7年生	15	4	0	2	0

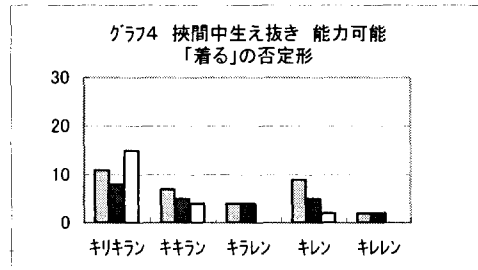


表5 こんなに暑くては、上着を着ることができない  
(客観状況可能の否定)期待される語形 キラレン

	キリキラン	キキラン	キラレン	キレン	キレレン
1984年生	2	2	7	9	7
1985年生	0	2	6	11	2
1986・7年生	6	0	7	6	1

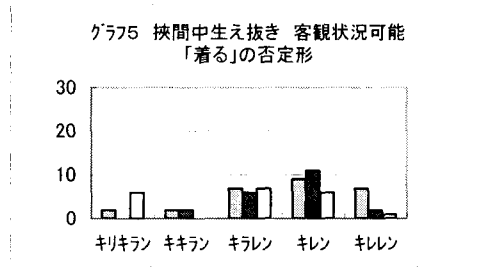


表6 服のデザインが似合わないと思うので着ることができない  
(主観状況可能の否定)期待される語形 キレレン

	キリキラン	キキラン	キラレン	キレン	キレレン
1984年生	5	3	5	12	5
1985年生	2	3	7	4	2
1986・7年生	5	6	8	2	1

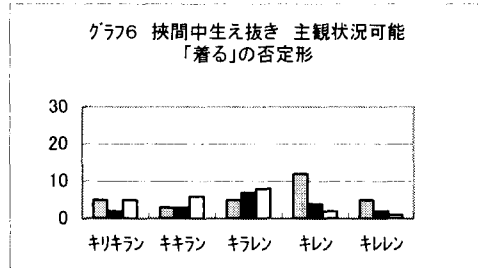


表7 視力が低いので、遠くのものを見ることができない  
(能力可能の否定)期待される語形 ミキラン

	ミリキラン	ミキラン	ミラレン	ミレン	ミレレン
1984年生	3	6	0	11	2
1985年生	2	2	2	8	0
1986・7年生	2	8	0	6	1
	その他				
1984年生	ミエン10				
1985年生	ミエン8, ミレナイ1				
1986・7年生	ミエン4, ミエナイ1, ミレナイ1				

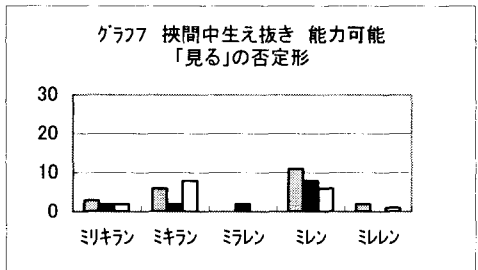


表8 家の前にマンションが建つと、公園を見る  
ことができなくなる  
(客観状況可能の否定) 期待される語形 ミラレン

	ミキラン	ミラン	ミラレン	ミレン	ミレレン
1984年生	0	0	10	13	1
1985年生	0	0	8	7	1
1986・7年生	0	0	12	6	1
	その他				
1984年生	ミエン10				
1985年生	ミエン6,ミラレナイ1,ミレナイ1				
1986・7年生	ミエン2,ミエナイ1				

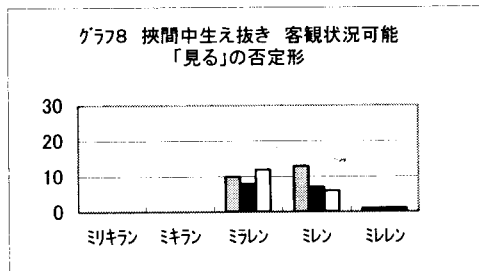


表9 朝からずっとテレビを見ているので、もう  
これ以上は見る事ができない  
(主観状況可能の否定) 期待される語形 ミレレン

	ミキラン	ミラン	ミラレン	ミレン	ミレレン
1984年生	2	4	5	13	4
1985年生	1	9	3	8	5
1986・7年生	3	5	3	6	5
	その他				
1984年生	ミラン2,ミキレン1,ミレナイ1				
1985年生	ミラン1				
1986・7年生	ミラン2				

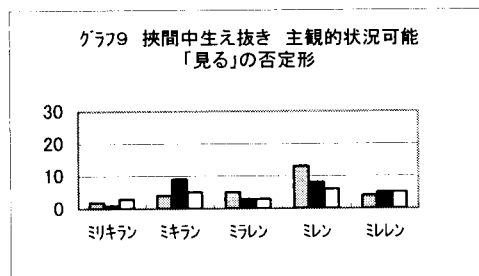


表10 英語が得意ではないので、英語の本を読む  
ことができない (以下18まで非生え抜き)  
(能力可能の否定) 期待される語形 ヨミキラン

	ヨミキラン	ヨマレン	ヨメン	ヨメレン
1984年生	48	1	50	9
1985年生	80	0	46	15
1986・7年生	75	2	55	20

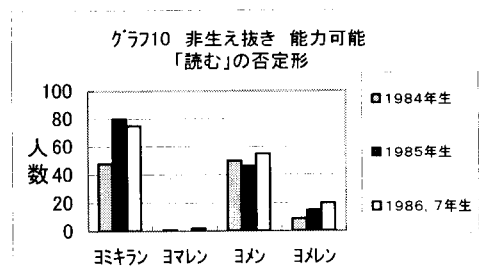


表11 部屋の明かりが暗いので、ここでは大好きな  
マンガの本を読むことができない  
(客観状況可能の否定) 期待される語形 ヨマレン

	ヨミキラン	ヨマレン	ヨメン	ヨメレン
1984年生	2	33	47	16
1985年生	1	58	53	24
1986・7年生	5	55	48	28

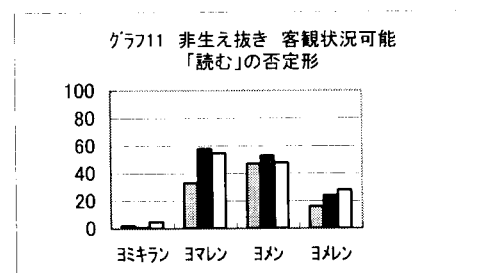


表12 3時間も本を読んでいるので、もうこれ以上は本を読むことができない  
(主観状況可能の否定) 期待される語形 ヨメレン

	ヨミキラン	ヨマレン	ヨメン	ヨメレン
1984年生	17	3	36	28
1985年生	32	7	52	40
1986・7年生	37	9	41	39

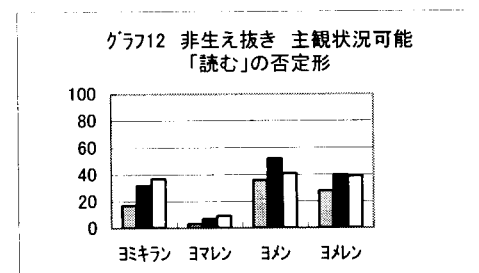


表13 まだ幼いから、洋服をひとりで着ることができない  
(能力可能の否定)期待される語形 キキラン

	キキラン	キラン	キラレン	キレン	キレン
1984年生	29	25	10	26	5
1985年生	67	24	12	27	6
1986・7年生	63	19	15	34	6

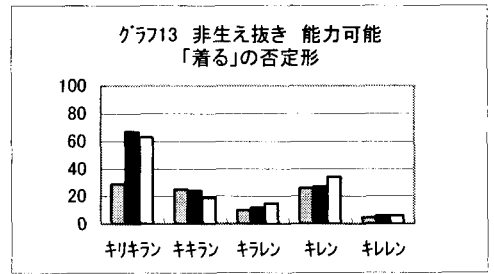


表14 こんなに暑くては、上着を着ることができない  
(客観状況可能の否定)期待される語形 キラレン

	キキラン	キラン	キラレン	キレン	キレン
1984年生	10	8	26	37	10
1985年生	6	14	38	61	11
1986・7年生	8	7	13	39	8

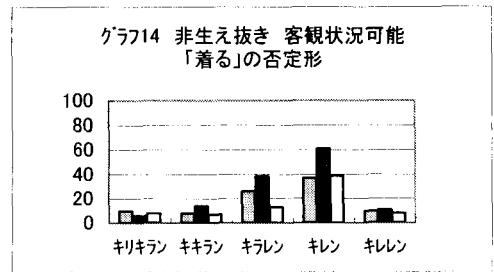


表15 服のデザインが似合わないと思うので着ることができない  
(主観状況可能の否定)期待される語形 キレン

	キキラン	キラン	キラレン	キレン	キレン
1984年生	15	18	26	19	9
1985年生	18	27	32	35	4
1986・7年生	24	22	30	35	10

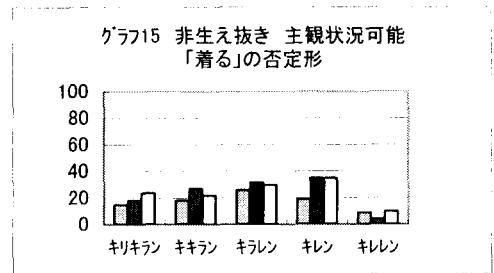


表16 視力が低いので、遠くのものを見ることができない  
(能力可能の否定)期待される語形 ミキラン

	ミキラン	ミラン	ミラレン	ミレン	ミレン	ミエン
1984年生	5	19	7	34	2	26
1985年生	12	28	8	45	0	38
1986・7年生	18	32	13	35	5	18
	その他					
1984年生	ミエン26,ミナイ1					
1985年生	ミエン38,ミナイ2					
1986・7年生	ミエン30,ミナイ3,ミナイ1					

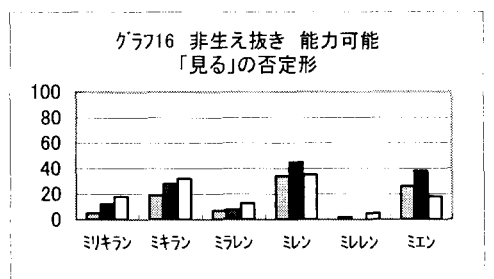


表17 家の前にマンションが建つと、公園を見ることができなくなる  
(客観状況可能の否定)期待される語形 ミラレン

	ミキラン	ミラン	ミラレン	ミレン	ミレン	ミエン
1984年生	0	0	35	32	1	21
1985年生	0	0	65	52	3	17
1986・7年生	4	1	62	47	6	13
	その他					
1984年生	ミナイ2他					
1985年生	ミエン6,ミナイ2他					
1986・7年生	ミナイ4,ミエン1,ミナイ1					

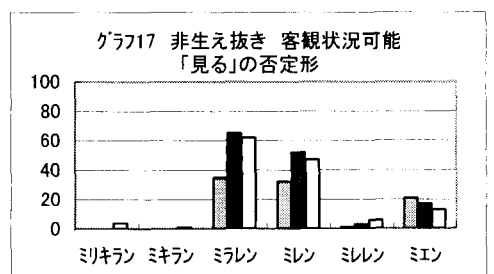
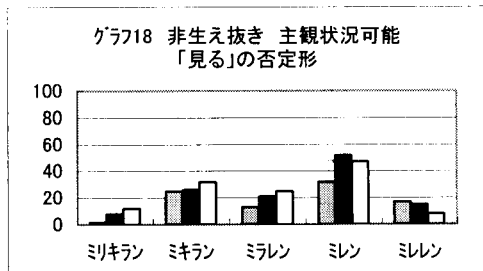




表18 朝からずっとテレビを見ているので、もうこれ以上は見るができない

(主観状況可能の否定)期待される語形 ミレレン

	ミリキラン	ミキラン	ミラレン	ミレン	ミレレン
1984年生	2	25	13	32	17
1985年生	8	26	21	52	15
1986・7年生	12	32	25	47	8
	その他				
1984年生	ミラン3,ミランナ1				
1985年生	ミラン6,ミランナ2				
1986・7年生	ミラン3,ミランナ4,ミランナ1他				



#### 4-4. 可能表現についての分析

##### 4-4-1. 使い分け率

{期待される語形の回答率\* (質問1) + 期待される語形の回答率 (質問2) + ...} ÷ (質問数)

= 使い分け率

\*期待される語形回答数 / その質問の全回答数

左記の式に従って、可能表現形式の意味による使い分け率を算出した。以下に、生え抜きか否かと生年別の使い分け率を示す。

表19 可能表現(否定形)の使い分け率

生え抜き	「読む」 (%)	「着る」 (%)	「見る」 (%)	平均 (%)
1984年生	39.08	26.44	22.99	29.50
1985年生	40.91	24.24	22.73	29.29
1986・7年生	51.66	38.33	41.66	43.88

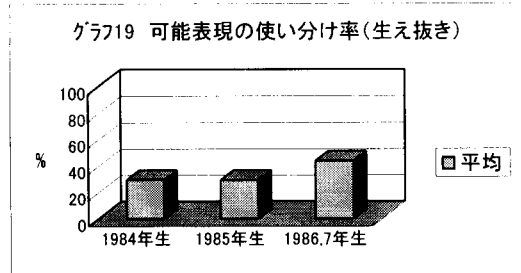


表20 可能表現(否定形)の使い分け率

非生え抜き	「読む」 %	「着る」 %	「見る」 %	平均 (%)
1984年生	42.25	23.26	27.52	31.01
1985年生	46.72	17.32	28.35	30.80
1986・7年生	47.39	11.76	28.57	29.24

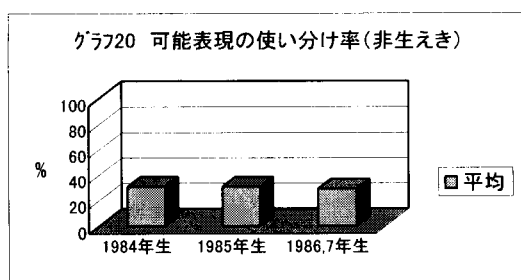


表21

連用形+キル(キラン)	生え抜き(%)	非生え抜き(%)
1984年生	25.29	28.81
1985年生	25.25	30.00
1986・7年生	40.00	33.52

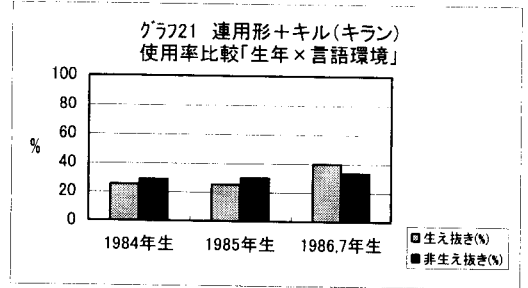


表22

可能動詞形	生え抜き(%)	非生え抜き(%)
1984年生	43.68	40.44
1985年生	36.87	33.61
1986・7年生	25.56	35.57

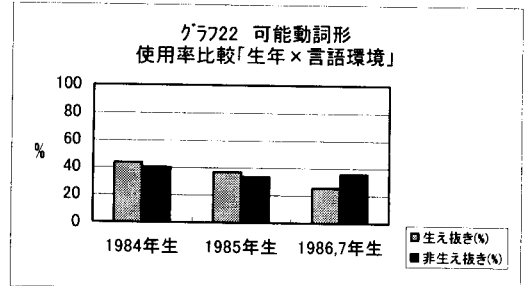
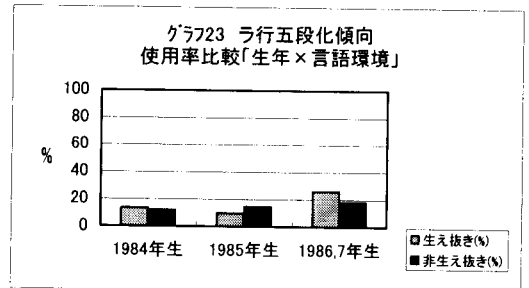


表23

ラ行五段化傾向	(着・見)リキラン	
	生え抜き(%)	非生え抜き(%)
1984年生	13.22	11.82
1985年生	9.85	14.57
1986・7年生	25.83	18.07



#### 4-5. 語彙の調査結果

##### 4-5-1. 語彙使用の回答表

「生え抜き×生年」の表を、後掲の表24～28に示す。次に「非生え抜き×生年」の表を、後掲の表29～33に示す。

##### 4-5-2. 語彙使用の回答比率グラフ

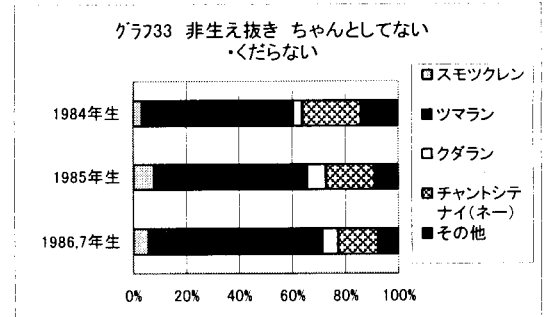
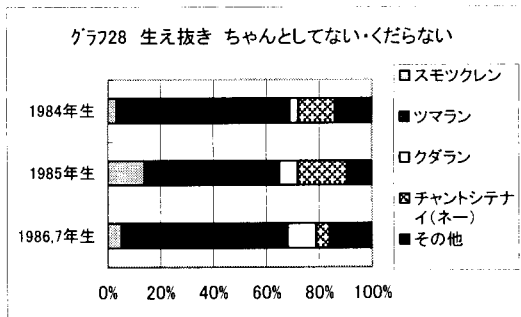
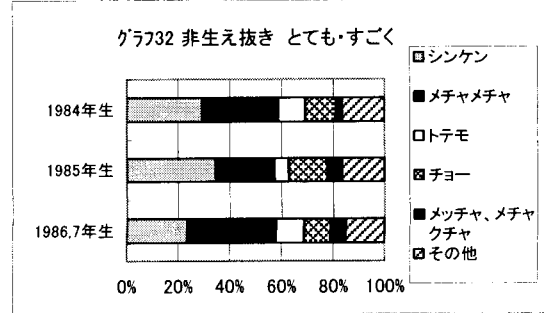
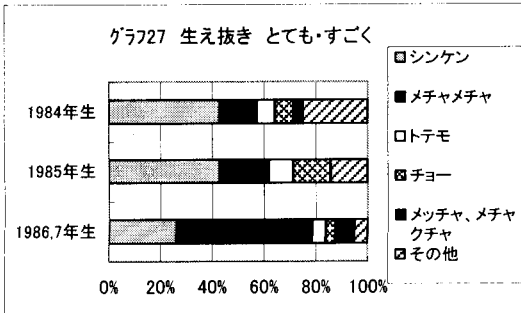
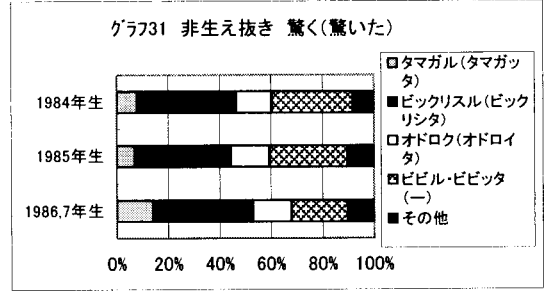
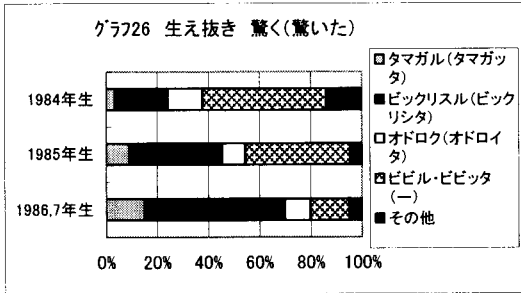
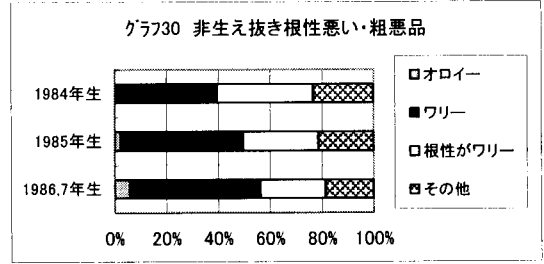
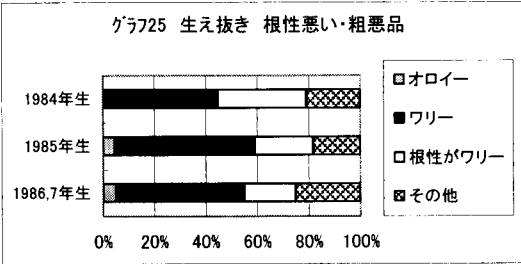
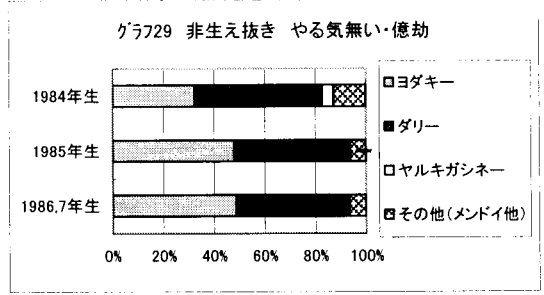
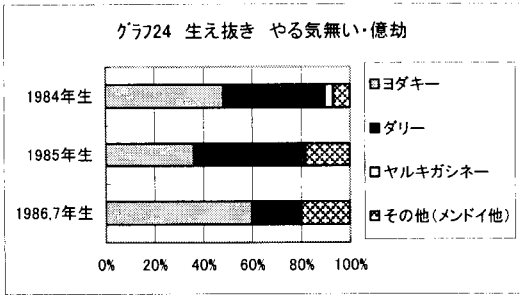
「生え抜き×生年」の回答比率を表すグラフを後掲のグラフ24～28に示す。「非生え抜き×生年」の回答比率を表すグラフを後掲のグラフ29～33に示す。

#### 4-6. 語彙についての分析

4-6-1. 伝統的方言・新方言の使用と使用理由  
後掲の表34～42に示す。

##### 4-6-2. 伝統的方言・新方言の使用とその理由

以下のグラフ34とグラフ35に、伝統的方言・新方言それぞれの使用の理由を、生年ごとにまとめたものを示す。なお、生え抜き・非生え抜きを総合したグラフになっている。



5. 考察

5-1. 可能表現 区分と形式

1986,1987年生まれの～キル形式使用が多い。しかし、キリキラン(着ることができない)とミリキランという「リの挿入」形式が多い。これは新しい形なのだろうか。1986,1987年生まれば、～キルを多用する傾向が見られる。

この～キルは、全体を通して主観状況可能(表3,6,9)でも多少の使用が見られる。先行研究によれば、能力可能と主観状況可能には連続性があり、能力可能の表現としての強調性を失った古い形式は、次に主観状況可能形式へと移っていくのである。使用においては、前段階の能力可能との間に厳然とした区別ができないことを、今回の調査結果からも確かめることが出来る。

今回の調査で明らかになったのは、学年が上がる毎に可能動詞形の使用が増えているということである。生え抜きの1986,1987年生まれでは25.56、非生え抜きの同年生まれの平均35.57%よりも10%も使用率が低かったのに、逆に1984年生まれでは非生え抜きの平均より

高くなっている(生え抜き43.6%、非生え抜き40.44%)。

以上の結果から、生え抜き話者は、入学した時には使っていなかった可能動詞形をその後非生え抜きとの接触によって獲得していったのであろうと推察できる。そして卒業時には、各形式の使い分けを放棄して、専ら可能動詞形で済ませるようになっていくのであろう。非生え抜きにもややその傾向が見られるものの、明確ではない。生え抜き生徒の過剰な反応が起きていることも考えられる。

5-2. 方言語彙の使用と使用理由

a. 「ヨダキー」：やる気がない・億劫(表24)  
 生え抜きも非生え抜きも、「同じ年の人が使うから」という理由が一番多い。次に「家族が使うから」という理由。非生え抜き1985年生まれには、「正しいことばだから」という理由が2人いる。また、生え抜きでは「おもしろいことばだから」はいないが、非生え抜きでは4人もいる。全体的に「その他」とした人が多いが、他に理由があるというよりは、「理由なし」というところだろうか。面接調査で追究してみたいが、身に付いたことばの使用ほど理由など

	ヨダキー使用の理由				非生え抜き	ヨダキー使用の理由			
	1986・7年生	1985年生	1984年生	計		1986・7年生	1985年生	1984年生	計
1 同じ年の人が使うから	5	1	7	13	1	20	18	5	43
2 家族が使うから	2	2	1	5	2	12	8	3	23
3 流行っていることばだから	0	0	0	0	3	1	1	0	2
4 正しいことばだから	0	0	0	0	4	1	2	0	3
5 新しいことばだから	0	0	0	0	5	1	1	0	2
6 古いことばだから	1	1	0	2	6	2	0	1	3
7 おもしろいことばだから	0	0	0	0	7	1	1	2	4
8 その他の理由	3	4	6	13	8	18	29	17	64

	オロイー使用の理由				非生え抜き	オロイー使用の理由			
	1986・7年生	1985年生	1984年生	計		1986・7年生	1985年生	1984年生	計
1 同じ年の人が使うから	0	0	0	0	1	2	1	0	3
2 家族が使うから	0	1	0	1	2	1	0	0	1
3 流行っていることばだから	0	0	0	0	3	0	1	0	1
4 正しいことばだから	0	0	0	0	4	0	0	0	0
5 新しいことばだから	0	0	0	0	5	0	0	0	0
6 古いことばだから	0	0	0	0	6	1	0	0	1
7 おもしろいことばだから	1	0	0	1	7	2	0	0	2
8 その他の理由	0	0	0	0	8	1	0	1	2

	ワリー使用の理由				非生え抜き	ワリー使用の理由			
	1986・7年生	1985年生	1984年生	計		1986・7年生	1985年生	1984年生	計
1 同じ年の人が使うから	6	3	4	13	1	24	25	16	65
2 家族が使うから	1	1	2	4	2	7	7	4	18
3 流行っていることばだから	0	0	1	1	3	0	2	1	3
4 正しいことばだから	0	0	0	0	4	1	1	0	2
5 新しいことばだから	0	0	0	0	5	1	0	0	1
6 古いことばだから	0	0	1	1	6	4	1	1	6
7 おもしろいことばだから	1	1	0	2	7	2	0	0	2
8 その他の理由	2	7	4	13	8	20	24	12	56

考えたことが無いものである。この調査を通じて、使用率の高い語では「その他」の数が多いことから、そのことが窺える。

#### b. 「オロイー」「ワリー」

：根性が悪い・粗悪品である（表25、26）

回答数自体が少ないことを考慮にいれつつ、表25を見ると、生え抜きが「同年」を理由に挙げていない一方で、非生え抜きは「同年」を理由にしている者が3人もいる。「家族」は同じ1人ずつ。非生え抜き1985年（以降、●●年でその年生まれのグループを示す）に、「流行っていることばだから」が1人いる。さらに、「おもしろい」を理由としている者は、生え抜き1984年以外に1人ずつと、非生え抜き

1986、1987年に2人である。生え抜きや県内生まれの生徒が何気なく使う「オロイー」という方言が、他県から転入して来た生徒には面白く感じられ、自ら使ってみるという、中学生の意欲が感じられる。ワリー（表26）においても、1986、1987年と1985年に「おもしろい」2人がいる。

#### c. 「タマガル」「ビビル」：驚く（表27、28）

タマガルについては、「家族」を理由に挙げた者が多い。内訳を見ると、非生え抜き1986、1987年に7人集まっているのが注目される。タマガルは、九州一帯に分布を持つ語なので、このような結果になったと考えられる。また、「おもしろい」が生え抜き1986、1987年に1

	タマガル使用の理由				非生え抜き	タマガル使用の理由			
	1986・7年生	1985年生	1984年生	計		1986・7年生	1985年生	1984年生	計
1 同じ年の人が使うから	0	0	0	0	1	0	1	1	2
2 家族が使うから	1	2	1	4	2	7	3	3	13
3 流行っていることばだから	0	0	0	0	3	0	1	0	1
4 正しいことばだから	0	0	0	0	4	2	1	1	4
5 新しいことばだから	0	0	0	0	5	0	0	0	0
6 古いことばだから	0	0	0	0	6	2	1	1	4
7 おもしろいことばだから	1	0	0	1	7	4	1	1	6
8 その他の理由	1	0	0	1	8	2	1	0	3

	ビビル・ビビッタ使用の理由				非生え抜き	ビビル・ビビッタ使用の理由			
	1986・7年生	1985年生	1984年生	計		1986・7年生	1985年生	1984年生	計
1 同じ年の人が使うから	1	2	6	9	1	8	11	10	29
2 家族が使うから	0	0	0	0	2	1	1	1	3
3 流行っていることばだから	0	2	0	2	3	0	1	0	1
4 正しいことばだから	1	0	1	2	4	2	3	0	5
5 新しいことばだから	0	0	0	0	5	0	1	0	1
6 古いことばだから	0	0	0	0	6	0	0	0	0
7 おもしろいことばだから	0	0	0	0	7	1	3	2	6
8 その他の理由	1	5	7	13	8	10	19	15	44

人。非生え抜き1986, 1987年に4人, 1985年と1984年に1人ずつである。ここでも、オロイと同様に当該地域の伝統的方言を家族や同級生から聞いて面白がり、取り入れていく様子が捉えられる。

表28に同じ意味で使用者が多いビビル(ビビッタ)は、生え抜きに「家族」の理由がおらず、「流行っている」が2人、「正しいことば」が1人。非生え抜きでは、「家族」が3人、「流行っている」1人、「正しい」5人、「新しいことば」1人、「おもしろい」6人である。ビビルは、いわゆる新方言<sup>51)</sup>であるが、生え抜きでは「おもしろい」という理由で使用する人がいない。同級生を通じてもたらされたビビルに対して、余裕の持てない生え抜き生徒の様子が窺える。

d. 「シンケン」「メチャクチャ」

: とても・すごく (表29, 30)

シンケンは他の語と違って、年齢が上の方が

使用率が高い。それは、シンケンが比較的最近使われるようになった語で、いわばひと昔前の「新しい言い方」であったことに関係すると思われる。

さて、生え抜きの理由は「同年」が最も多く8人だが、「家族」を理由にする生徒はいない。それに対して非生え抜きでは「同年」が29人、「家族」22人、「流行っている」3人、「正しい」5人、「古い」3人。他の理由は少数でまともは無い。このような強調の副詞は、流行の期間が短く、次々に使い捨てられていくというのが通説である。実際に、京阪神地域の方言と思われるメチャクチャが1986, 1987年の世代から広がっている。それらは「同年」や「流行っている」「新しい」「おもしろい」の理由がそれぞれ多いことから簡単に推理できる。語の歴史は語の数ほどあると言われているが、「とても・すごく」の場合は特にサイクルが短いせいか、広まり方が他のどのグラフとも異なる(グラフ27, 32)。

	シンケン使用の理由				非生え抜き	シンケン使用の理由			
	1986・7年生	1985年生	1984年生	計		1986・7年生	1985年生	1984年生	計
1 同じ年の人が使うから	4	2	2	8	1	11	10	8	29
2 家族が使うから	0	0	0	0	2	5	13	4	22
3 流行っていることばだから	2	0	0	2	3	2	1	0	3
4 正しいことばだから	0	0	0	0	4	1	2	2	5
5 新しいことばだから	0	0	0	0	5	0	1	0	1
6 古いことばだから	0	0	0	0	6	2	1	0	3
7 おもしろいことばだから	1	0	0	1	7	0	1	0	1
8 その他の理由	3	2	2	7	8	6	15	11	32

	メチャメチャ使用の理由				非生え抜き	メチャメチャ使用の理由			
	1986・7年生	1985年生	1984年生	計		1986・7年生	1985年生	1984年生	計
1 同じ年の人が使うから	4	2	2	8	1	20	12	14	46
2 家族が使うから	0	0	0	0	2	1	2	2	5
3 流行っていることばだから	2	0	0	2	3	4	3	1	8
4 正しいことばだから	0	0	0	0	4	0	2	0	2
5 新しいことばだから	0	0	0	0	5	3	1	1	5
6 古いことばだから	0	0	0	0	6	1	0	0	1
7 おもしろいことばだから	1	0	0	1	7	3	1	0	4
8 その他の理由	3	2	2	7	8	9	8	7	24

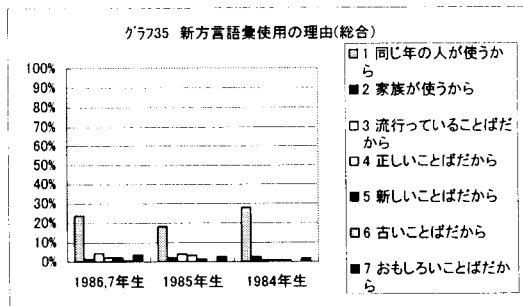
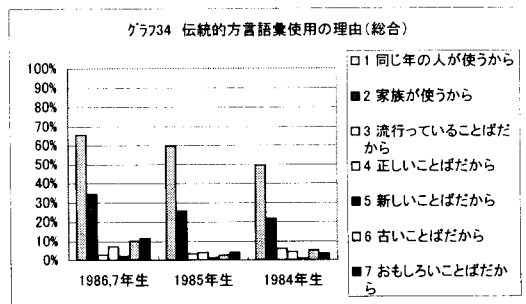
<sup>51)</sup> 現在勢力を拡大しつつある標準語形とは異なる新形で、話し手自身が非標準語形として扱うもの。井上(1985)などに詳しい。

e. 「スモツクレン」「ツマラン」  
 : ちゃんとしてない・くだらない (表31, 32)  
 スモツクレンの結果の特徴は、非生え抜き  
 1985年に使用者が多いことである。他の生年  
 では僅差ながら「家族」が理由として一番多い

のに対して、「おもしろい」3人である。使用  
 者自体の数が少ないので即断はできないが、非  
 生え抜き中学2がこの中で最も言葉遣いに遊び  
 心があるという証拠のひとつになるかもしれな  
 い。

	スモツクレン使用の理由				非生え抜き	スモツクレン使用の理由			
	1986・7年生	1985年生	1984年生	計		1986・7年生	1985年生	1984年生	計
1 同じ年の人が使うから	0	1	0	1	1	0	1	0	1
2 家族が使うから	0	1	0	1	2	2	2	3	7
3 流行っていることばだから	0	0	0	0	3	0	0	0	0
4 正しいことばだから	0	0	0	0	4	1	1	0	2
5 新しいことばだから	0	0	0	0	5	1	0	0	1
6 古いことばだから	0	0	0	0	6	1	1	1	3
7 おもしろいことばだから	0	0	0	0	7	1	3	0	4
8 その他の理由	1	0	1	2	8	0	1	0	1

	ツマラン使用の理由				非生え抜き	ツマラン使用の理由			
	1986・7年生	1985年生	1984年生	計		1986・7年生	1985年生	1984年生	計
1 同じ年の人が使うから	6	4	8	18	1	28	34	16	78
2 家族が使うから	2	3	3	8	2	13	5	5	23
3 流行っていることばだから	0	0	0	0	3	3	1	1	5
4 正しいことばだから	1	0	1	2	4	4	1	3	8
5 新しいことばだから	0	0	0	0	5	0	0	1	1
6 古いことばだから	0	0	1	1	6	3	0	0	3
7 おもしろいことばだから	1	0	0	1	7	2	0	1	3
8 その他の理由	2	4	6	12	8	23	31	22	76



## 6. まとめ (まとめと今後の課題)

これまで示した調査・分析結果と考察から、  
 今回の挟間中学校全校生徒対象のアンケート調  
 査によりわかったことをいくつか列挙する。

### ① 可能表現

#### 「生え抜きの生徒」

- ・ 可能動詞の使用が年齢の高くなるほど増える。これは、全国的な傾向に合致している (マイナーからメジャーへ)。
- ・ それに伴って使い分け率も下がることから、従来報告されている3区分をやめて、可能動詞ひとつで済ませようとする傾向もわか

がえる。

- ・ 一段活用動詞「着る」の能力可能の形式として、キリキル(キリキラン)が優勢である。年齢が若い方がより顕著である。
- ・ 反対に、「着る」「見る」の主観状況可能の否定の形式キレレンやミレレンは衰退傾向が見られる。

このことばは京阪神地域からもたらされたものであり(『日本方言大辞典』『びびる』参照)大分の流行語「シンケン」が大都市出身の「メチャクチャ」などに駆逐されているととらえられる。

### 「非生え抜きの生徒」

- ・ 生年による可能表現の使い分け率の差はほとんど見られない。
- ・ 1984年の能力可能表現～キル形式が衰退傾向にある。五段活用動詞「読む」に比べ、一段活用動詞「着る」「見る」の方が、意味による形式選択が曖昧なように観察される。

## ② 語彙

### 「生え抜きの生徒」

- ・ まず、伝統的な大分方言語彙「オロイ」「タマガル」「スモツクレン」については、ごく少数の使用しか確認できないが、どちらかといえば1984年生よりも1986、1987年生まれの方に使用者があり、理由としては「家族が使うから」と「おもしろいことばだから」が上がった。そもそもそのことばを使う理由などを答えること自体が難しいことであり、他の方法による結果との検討が必要である。
- ・ 強調の副詞「シンケン」は1986、1987年生にはやや衰退傾向があらわれ、代わりに「メチャクチャ」「メツチャ」が増加している。

### 「非生え抜きの生徒」

- ・ 使用の理由に「家族」より「同じ年の人」をあげる人が多い。他所から転入してきて、同じ年の生徒たちとことばを合わせようとする傾向がうかがえる。

以上、挾間中学校における中学1年生は、入学後しばらくは家族(生え抜き老年層・中年層と同居)と同じことばを使っているが、多くが次第に同じ中学に通う同年者のことばに影響を

受けて、そこで優勢のことば(新方言や共通語)へ切り替えてゆく、その様子がわかる。

非生え抜きの場合、過去に住んでいた土地との相関関係も見なかったが、今後の課題とした。

今回は、2つの調査項目を分析・考察した。すでに調査した他項目でも同様の分析を試みる予定である。また、アンケート調査の結果を確認・補充するために、臨地調査も必要である。さらに、町の各年層(老・中・青年層)とことばとの比較も予定している。

国内の多様な方言体系の接触によって、どのような変化が起こるのか、またその動態からどのような普遍的事実が明らかにできるのかを解明する一歩として、上記のことを今後の課題としたい。

【附記】本調査に関しまして、快くご協力くださいました挾間中学校の田邊校長先生をはじめ、国語科担当の先生方、挾間町清永教育長、甲斐学校教育課長に心からお礼申し上げます。

そして、アンケートに答えてくれた平成11年度挾間中学校全校生徒の皆さん、ご協力本当にありがとうございます。また、アンケート結果入力協力者の方にも、記して感謝致します。

播磨由子 日高朋子 本多由実 山田寛樹

### 【参考文献】

九州方言研究会1969年

『九州方言の基礎的研究』風間書房

松田正義・日高貞一郎1996年

『大分方言30年の変容』明治書院

吉岡泰夫1990年

『高校生のことばの特徴』『日本語学』9-4 明治書院 所収

吉岡泰夫1996年

『若者の方言志向』『方言の現在』

(小林隆他編著) 明治書院 所収

陣内正敬1996年『地方中核都市方言の行方』

地域語の生態シリーズ/九州編

おうふう

糸井寛一・種友明1977年

『大野川流域における可能表現』



大分大学教育学部編『大野川—自然・社会・教育—』所収

日高貢一郎・種1981年

「大分県津江地方の可能表現」

『大分大学教育学部紀要—大分県津江地域特集—』

所収

日高貢一郎1983年

「大分県国東半島の可能表現」

大分大学教育学部編『国東半島—自然・社会・教育—』所収

日高貢一郎1991年

「大分方言の可能表現」

『大分県史—方言篇』第五章第一節「可能表現」

神部宏泰1987年

「九州方言の可能表現法—その存立と特性—」『兵庫教育大学紀要』7巻所収

真田信治・渋谷勝巳・陣内正敬・杉戸清樹編著

1992年『社会言語学』おうふう

井上史雄1985年

『新しい日本語—<新方言>の分布と変化—』明治書院